

Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかし合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.40 2015年6月号

ザンビア募金の進捗報告

「三井住友銀行ボランティア基金」からご支援いただいた寄付金の用途について、報告します。

👉 p.2-3

ザンビア体験記

今年3月にザンビアを訪れた学生たちからの報告です。

👉 p. 4

離任・着任のご挨拶

この度、離任及び着任したスタッフからの挨拶です。

👉 p.5

ホームページ、ブログ、Facebookでも情報発信しております。巻末を参照下さい。



今回支援を行ったカムロプエ・コミュニティスクールの生徒たち（3ページ参照）

ザンビア募金☆進捗報告

瀬戸口 千佳（業務調整員）



「三井住友銀行ボランティア基金」より寄付をいただき、学習環境の向上を目的として次の3校の学校支援に活用しました。

▲ 理科実験道具一式の寄贈式典の様子



理科の実験セットを寄贈した時の様子

モンボシ・セカンダリースクール（高等学校）への 理科実験道具一式寄贈

TICOが2007年から母子保健事業を実施しているモンボシ地域には、通学できる範囲に高等学校がありませんでした。このため下宿あるいは寄宿制の高等学校へ行かなければならず、学費と合わせて生活費もぐっとかさむようになるため、これまで進学をあきらめざるを得ない子どもたちも多くいました。ついに、待望の高等学校教育が2014年から始まることになりましたが、しかし、そこはザンビア。生徒が増えるのに校舎も授業に必要な教材も、教員も不足したままのスタートとなりました。

全てを支援することは出来ませんが、高校の基準として理科実験室の設備が必須ということもあり、JICA（日本国際協力機構）がザンビア国立科学センターと作成した理科の実験セット一式を本寄付金で購入しました。当日は、生徒よりも理科の先生方のほうが興奮し、楽しそうにセットに含まれている器材を一つ一つ名前を口に出しながら確認していました。まだ学校に理科実験室はありませんが、可動式セットのため授業のたびに教室から教室へ移動させて使われています。



▲可動式理科実験セットの内容



校舎の屋根に取り付けられたソーラーパネル

ンコンジェ・プライマリースクール（小学校）への ソーラーシステム一式導入

2010年から2012年にかけて、校舎建設を支援したンコンジェ・コミュニティスクールのことを覚えてらっしゃるでしょうか。2012年まで4人の無資格教員（地域の有志）だけで教えていましたが、校長として着任したニヨンド先生の奮闘あり、いまでは10人の有資格教員（正規の資格を持った先生）が在籍しています。さらに、コミュニティスクールという任意の学校から、公立校であるプライマリースクールへ格上げされ、今年から中学校教育も開始されるという破竹の勢いで成長している学校です。

ただ、ンコンジェ村には電気がありません。村の外から来た有資格教師はこれまで電気のある生活をしてきた場合が多く、村での生活がままならないことも。長期に渡って勤務してもらい、子どもたちの学習環境を維持するためには、先生たちの生活環境も考慮にいれていかねばならないのです。今回は、校舎と教員住宅の計3棟に、ソーラーシステムを導入することが出来ました。その後、さらに4名の教員の追加派遣が決まったそうで、現在ニヨンド先生は追加の教員住宅の確保に奔走しています。



教員住宅内に設置されているソーラーバッテリー▲



▲コミュニティが作っていた基礎部分。レンガはもちろん彼らが焼いています。



▲建設の進捗状況



▲支援した資材

カムロブエ・コミュニティスクール (小学校)の教員住宅建設

1年生から7年生まで600人近くが通うカムロブエ・コミュニティスクールは、地域の人々によって運営されている学校です。7人の先生が在籍していますが、そのうち有資格教師はたったの2名です。いまの日本では考えられないことですが、地域で建てられたコミュニティスクールが、政府から有資格教員を派遣してもらうには、地域で教員住宅を用意するのが条件です。これまで、PTAが中心となって2軒の教員住宅が建設されました。今回、TICOスタッフが現場視察に行った時点では、3軒目の基礎作り中でした。この3軒目の教員住宅建設

にかかる資材の一部を本寄付金で支援します。

有資格教員を政府から派遣してもらうメリット、それは1つ目に子どもの学習環境の向上、そして2つ目に地域の金銭的負担の軽減が挙げられます。有資格の先生は公務員ですから政府が給料を支払います。では、無資格の先生の給料は誰がまかなうのか。それは親たちが授業料という形で支払っているのです。初等教育は無料化された、ということになっていますが、コミュニティスクールの運営はそれでは成り立たないのが現実。有資格教員が来てくれれば、子どもたちの学力も上がり、地域の負担も減るという面で一石二鳥なのです。

学費支援へのご協力、ありがとうございました！

2015年1月号（No.39）でご協力お願いしました学費支援、目標としていた金額を達成いたしました。結果、昨年同様にモンボシ小学校の新8、9年生の計30名の学費支援を継続してできるようになりました。5月以降に受け取るご寄付は、来年の支援に使わせていただきます。



「最近の若者は内向き」、 とんでもない！

TICO代表 吉田 修

これまで多くの学生など国際協力に関心のある今時の若者を、合宿／スタディーツアーという形で受け入れてきた。最近では、看護師をインターンとしてザンビアの現場に受け入れた経験もある。また、国際保健医療学会の学生部会、小学校から高校、大学で講師を務めた際に感じることは、一般に思われているよりもずっと、国際協力に関わりたいと思っている若者は多いということである。しかも皆さん熱心に勉強し、しっかりとネットワークを持って情報交換をしている。

徳島の幾つかの大学の学生が組織するTICOユースも非常に活動的で、TICO本部も驚くほどである。彼らはチャリティーイベントなどを企画して寄付を募り、その結果、TICOの活動している地域の子供たちの学費支援に大きく貢献した。学

生の団体にもこれだけの国際貢献ができる事を示してくれた。

私の勤務するさくら診療所には、途上国で働きたいと真剣に考えている医師がちよくちよく尋ねてくる。「近い将来アフリカなどで命を救いたい」と純粋に情熱的に研修を積んでおり、頼もしい限りである。私自身も若い頃、青年海外協力隊と特定非営利活動法人AMDA（アムダ：岡山に本部を置く緊急人道支援活動を行う団体）に育てていただいた。青年海外協力隊の医師派遣がなければ、日本の病院で心臓血管外科医を続けていただろうし、AMDAでの経験がなければTICOも無かつただろう。

非常に残念なのは、学生時代に情熱を持って将来の国際貢献を見据えていた多くの人が、社会に出るとその道を諦めている事である。周りからのプレッシャーや職場での責任の重さなど、外に足を出にくい環境に加え、医師として途上国の現

場で働ける機会は非常に少なく、国際機関からは高い経験を問われる。

アフリカに現場を持っている団体として積極的に若い人材を受け入れ育てていく事、そこで多くの貴重な経験を積んでもらう事も役割の一つであると思っている。

つるぎ町立 半田病院との連携で行う「国際総合診療医 研修制度」では、最初の研修医を受け入れている。将来の国際医療協力を担う人材が輩出されることに、大きな期待を寄せている。



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。

写真：自家農園にてジューンベリーを収穫中。

ザンビア体験記

この夏も多くがTICOの活動地を訪れました。地域住民自らボランティアとして活動している出張健診などの見学を行いました。彼らの感想が届きましたので、ご紹介いたします。

＊IFMSA（イフムサ）：国際医学生連盟－日本

旭川医科大学 医学部医学科 2年 山縣弘規

モンボシ地区で行われる出張健診を見学させていただきました。ここでは、

資格を持つスタッフと現地のボランティアが協力して、100組近い母親と乳幼児の出張健診を行っていました。一斉に100組近い親子が出張健診を行うこ

とによって、母親同士のコミュニケーションの場ができるだけでなく、子供が今後受けていくべき健診の様子を知ることができるのだと感じました。日本では親子が個人的に健診を行うため、自分の子供の成長度合いを他の子供と比較し辛く、母親が持つ育児に対する不安を母親同士で共有する場が少ないといった不安があると考えられます。そのような不安を解消するためにもザンビアの出張健診の体制を参考にすることもできると思いました。



▲出張健診に訪れたお母さんたちに混じる

杏林大学 医学部医学科 1年 藤井彩乃

大きな木が作る木陰のもとに集まった、子供を連れたお母さんたち。トンガ語でおしゃべりする彼女たちの明るい熱気を感じた。月に一度のこの出張健診は女性たちの交流の場にもなっているようであちこちから笑い声が聞こえる。体重測定や予防接種を受けているときの顔は真剣だが、子供の健診が終わる

と数人のお母さんたちが自然に集まり笑顔を活かべ語り、笑いあっている姿は印象的だった。

ザンビアでは女性の立場がまだまだ弱く、家族のしがらみがあったりする中で本人の意志がどれだけ反映されているかはわからない。ファミリープランやお産をする場所の選択、時間はかかるかもしれないが一人一人の女性が個

人として尊重される国になって欲しいと思う。



▲赤ん坊を抱いたお母たちとの交流

札幌医科大学医学部医学科 3年 青木一毅

ヘルスポストの中には必要最低限の物しかなく、役割としてこれで十分なのだろうと感じると同時に、お産の家の分娩室はこの設備で安全に分娩が行えるのかと驚いた。実際に出産を終えたばかりの女性と赤ちゃんに会わせていただいて、あの小さく質素な分娩室で無事に新たな命が誕生した瞬間をこの目で見る事ができ、とても感動した。

TICOの山崎さんがおっしゃっていたことが心に残っている。「思ったよりも綺麗だったとか日本よりも綺麗だったというように、何かと比較して見るのではなく、常によりよくするためには何が必要か、きれいだけ何が足りないかという物の見方で取り組んでいかなければいけない」という言葉だ。このような見方は想像以上に難しく、気付いたら自分のイメージや日本の環境と比べてしまう自分がいて、自分の知

識量の絶対的な不足や未熟さを思い知らされたので、しっかりと勉強していきたい。



▲合宿でザンビアについて発表

離任の ご挨拶

竹村 俊男 (村落開発専門家)

1年1ヶ月のザンビアでの業務を終えて日本に戻って参りました。この間、住民保健ボランティアとともに、30回以上の会議や40回以上の出張健診を実施してきました。今も目に焼き付いているのは、地域住民の健康のために献身的に働く彼ら彼女らの姿です。TICOは2007年からモンボシ

地域で事業を実施しており、育成してきた住民保健ボランティアの知識や経験の「積み重ね」が、住民保健ボランティアの現在の活躍につながっているのだと強く感じました。一方、そのような活躍を持続的なものにするためには、住民保健ボランティア個人だけではなく、組織としての力をつけることも必要です。

こうしたTICOの事業の「積み重ね」を応援して下さっている支援者や関

係者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後は皆さんとともに、この事業の進展を楽しみに見守っていききたいと思います。



村の人々に対して講習を行う様子

山崎 恵子 (インターン)

インターンを終え、今年の3月に無事帰国しました。TICOスタッフの方をはじめ、現地の方に支えて頂き過ごせた半年間でした。ザンビアでは出張健診に同行し、現地の方と共に出張健診の質の向上を目指し活動をして来

ました。健診の一連の流れの中で、現場のボランティアさんが、何にハマっているのかを観察し、どのようにアドバイスすれば良いか、または環境作りをすれば良いかをTICOチームで話し合い、試行錯誤しながら実践しました。うまくいく事ばかりではありませんでした。現場の反応を見ながら、現場の方と共に問題解決していく事にやりがいを感じ、充実

した時間を過ごす事が出来ました。本当に、ありがとうございました。



ボランティアさんと一緒にお母さんの話に耳を傾ける様子

着任の ご挨拶

柳下 優美 (業務調整員)



で業務調整員として着任することになりました。私は、アフリカという大きな大陸に今まで足を踏み入れたことが無く、どんな食べ物を食べているのだろう？どんな習慣があるのだろう？お湯は使えるのかな？と、正直頭の中はハテナマークばかりです。最初は、地域の方々から見て、「外

部者」と認識されるかもしれませんが、赴任中に「仲間の一人」として受け入れられるようにになりたいと思っています。

日本の支援者の皆様に感謝の気持ちを常に持ち、全力で取り組んでまいります。よろしくお願いします！

村上 久子 (事業モニタリング [地域・行政間連携強化])



NGO職員としてアフリカ、南アジアで活動した経験があり、ザンビアは2回目の任地である。2000年のミレニアム元年から始まったMDGsへの取り組みの最終年度の2015年に、TICOのザンビア事業で再びザンビアに戻り事業に関わることになり、本当にうれしく思っている。

この15年で母子保健の指標が大きく改善されてきた反面、都市と農村の格差はますます広がり、5歳以下の乳幼児死亡率も減少が頭打ちとなっている現状に対し何ができるか考えながら、業務を行っていききたい。

事務局長 福士庸二のつぶやき

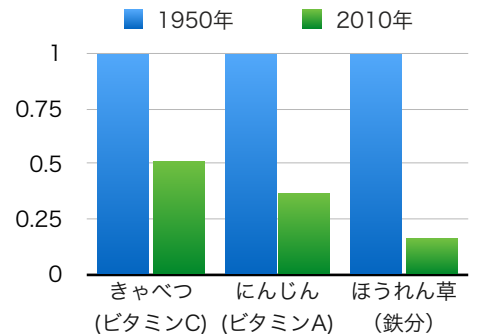
マイブームは「野菜」

昨年のお正月にアレルギーから体調を崩し、それ以来「もう二度とあんなしんどい思いをしたくない」という一心から、健康志向へまっしぐらの今日このごろ。歳を重ねると、誰もが思うことかもしれませんが、長生きしようとは思わないですが、しんどいのは嫌ですね。

ところで、1950年頃の野菜と現代の野菜の栄養価を比較したところ、現代の野菜の栄養価が大きく減少しているという結果が出ていることをご存知ですか？これでは、頑張って野菜を食べたところで、必要十分な量の栄養を摂取することは難しいということ。でも、人工的に作られたサプリメントは飲みたくありません。

栄養たっぷりのおいしい野菜がどこでも安価で手に入れられるになればよいのですが……。これからの農家の頑張りに期待します。

そういえば、子供の頃に食べた父の野菜は味が濃かったなあ。



▶1950年の野菜に含まれる栄養価を1とした場合の、2010年の野菜の栄養価

(日本食品標準成分表(初版)、日本食品標準成分表2010)

ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方(書き損じハガキ含む)

片山哲夫・ユリヤ、北池洋子、原田景子、菊谷満子、地造津根子、吉野川市立森山小学校、野口幸司、瀬戸口俊郎、西愛正、日浅芳一、わらびの会、寺口美香、坂東正章、神宅小学校、戸島泉、津嘉山郁子、石村明子、柳崎義美、さくらcafé募金箱、福士康二、匿名5名

会員を更新された方

岡崎明美、松島、木村秀樹、櫻井芳騎、高磯甫隆、岡真澄、竹下豊、井内誉範・晴子、佐藤三千子、住友和子、馬場節子、中村晃一、関野聡美、西村美香、武市秀男、原田恵子、垣原宏治、須藤榮子、畑和子、井内一志、大瀧知津枝、町田美佳、田所幸枝、尾崎富美子、能田千春、竹村俊男、匿名1名

新たに入会された方

青木一毅、藤井彩乃、山縣弘規、柳下優美

● 2015年2月1日分～2015年4月31日
● 順不同、敬称略

*TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員 個人	¥12,000
学生	¥6,000
団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ下さい。



TICOニュースレター Face to Face 第40号

2015年6月発行 発行人：吉田 修

編集：近森 由記子

来島 孝太郎

*ご寄付をお待ちしています。

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ) テイコ

指定寄付 — 該当する項目を振替用紙の通信欄にお書き添えください。また、銀行振込の場合は、該当する項目をお知らせください。

♣ ザンビア募金 (ザンビア)

♣ 学費支援 (ガレ)

クレジットカード — ホームページをご覧ください。

募金箱 — さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこから買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

書き損じハガキ — 事務局までお送りください。

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271 (平日 9:30～18:30)

メール：info@tico.or.jp / ホームページ：www.tico.or.jp

フェイスブック：www.facebook.com/ticohq

ブログ：blog.goo.ne.jp/tico_blog